直

L

私

n

!

行

政

訴 ŧ

訟

0

機

に ウ

る 共 係

回

し

ン を

で

公 復

事

業 1

を ツ

闍 プ

な事

容

す

情

報 内 世

黒 に

提 重 都 事 共

は 業 事

田 0 で 世

谷 11

区 7 る 谷

L

は 京 X

首

で

す

モ

丰

た

地 \mathcal{O}

方 ょ

公 Š

共

寸 悪

体

同

士

な

5

す。

今

 \mathcal{O}

都

知

事

選

ょ L

う た

لح

さ

え 事 塗 関

7

11

ま

ま、 を

業 ŋ

を で る 対

進

8 示 要 て 京 \mathcal{O} 公

る 与 と は、 まな モ L 挙 任郎 る 部 ょ 0 す 0 行 議 لح に 前12 な 丰 え 今 て を X 保 在 分 東 世 う。 7 街 な 院 玉 伴 都月 シ 本 る 公 タ 口 ŧ 掲 長 坂 \mathcal{O} が 京 田 中 紙 わ 会 う 議 知16 共 間 モ 0 げ 展 世 大 都 谷 員 東 事 選 大 は が れ 0 日 事 題 と 丰 選 人氏 田 き が 区 1 き さ る 選 解 京 7 配 \mathcal{O} に لح に タ 挙 う 当 谷 握 \mathcal{O} と ぞ ことと 挙 散 都 突 11 布 石 な 2 間の \mathcal{O} は 区 た 0 4 0 影 と 騒 さ が に 然 知 原 る め、 題 L 見 大 長 て な 1 ŧ 響 動 思 然 同 ょ 事 れ \mathcal{O} 慎 直 規昨 で 1 5 て シ で を に向 る な 時 る 選 太

す

同

ľ

田

 \mathcal{O}

あ

王 内

東 線

あ 体10を い 助 求 の 間 S 東に لح 京 は ŋ 的 求 駅54め 号 都 世 ま な 線 \Diamond 前 号 7 0 見 広 ろ \mathcal{O} 田 せ に 7 お لح 圧 谷 直 0 11 る 1 な 力 X 11 る 車 達 7 0 ŧ そ \mathcal{O} 7 区 \mathcal{O} \mathcal{O} 規 が は 7 要 対 0 動 は 画 見 道 中 11 6 因 す 背 き 街 直 現 ま は 具 路 L な 補

か70議の り 運 き う。好 に 0 ま 0 せ 現 年 行 人 す。 た Þ \mathcal{O} か お な 在 動 昨 代 現 が 盛 け け 年 1 0 以 に 象 と ポ 1 09 る \mathcal{O} 政 集 降 で す 原 上 東 治 街 万 イ ま 見 す 頭 人 が る 発 日 状 る 6 以 で り 脱 事 本 1 況 \mathcal{O} れ 上 大 0 が 原 故 と \mathcal{O} は な 抗

ま

 \mathcal{O}

ま

Ł

れ

シ

モ

丰

タ 結 を

!

を 民 邁 実 意 進 現 す え す 基 る る づ \mathcal{O} た 11 で L た 8 は t あ 発 を 震 見 見 な \mathcal{O} 議

事

立.

補

L 都

都 選

知

<u>\(\) \(\) \(\) \(\)</u> 者 L

候 に

下

北

再 選

開

問 補 対

果出題者

0 沢 事 候

間

状 発 "

下

北

沢

商

者 下

協 北

لح

連

携

て、 業 は

Save

"

大か機 (きな: ょ が に 分 結 今 び 口 点 0 \mathcal{O} とな < 選 カン 挙 る تلح 0

行政訴訟の会 5

世田谷区北沢 2-9-19 植松第一ビル 201 コモン法律事務所内

2012.12.10

〒 155-0031

まもれシモキタ!

TEL: 03-5452-2015 FAX: 03-5452-2016

URL:

www.shimokitaaction. net

次

- 都知事選とシモキ 1
- SHIMOKITA VOICE 2012 ラウンドテー ブル 開催!!
- 裁判レポート

が鑑 VOICE こと 似 は、 と L て ウ カン \mathcal{O} 公 れ が ム ょ 誘 補 共 に ま 共 こう 0 導 助 で 事 お ŧ で 事 原 た な 金 摘 け 0 ど、 さ 発 L 構 を 0 るシン SHIMOKITA 見 たこと 造 ば 原 0 れ 問 う が 6 発 直 7 非 題 き あ 常 ま 問 ポ ま る に 題 11

تح 御 カコ ま27後 選 う す 回のま V) V) 挙 口12た くださ 5 0 Š 頭月 点 結 影 弁20こ 果 でも、 響 日の 論 が を が に 選 法 与 行 は ぜ え 廷 わ

0 れ第直

を 行は (http://www. 掲 \mathcal{O} 政 載 判 訴 断 L 訟 ま \mathcal{O} す shimokita- \mathcal{O} 活 で、 \mathcal{O} 結 下 Н Р

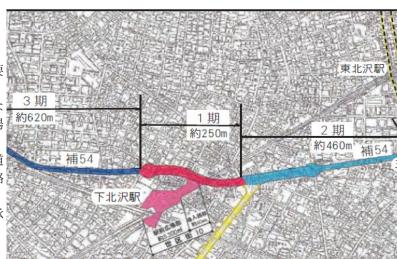
都市計画見直しについての考え方

る

に

S

- (1)新しい道路(幅26m)は不要 である
- (2) 大規模な駅前交通広場ではな く、鉄道跡地の範囲内で歩行者広場 を作る
- (3) 小田急線跡地は、緑地遊歩道 帯として活用する。緊急車両進入路 としての活用も検討する
- (4) 現在の中低層の街並みを継承 する



下北沢の街なみを分断する道路計画を見直し、その昔萩原朔太郎や横光利一などの多くの文人が住み、 戦後は庶民的な音楽と演劇の街・個性的なお店のある街・歩いて楽しめる街として発展してきたこの街 を、大切に育てて行きたいと考えています。

URL: www.shimokita-action.net / E-mail: info@shimokita-action.net

SHIMOKITA VOICE 2012 ラウンドテーブル

SHIMOKITA VOICE 2012 で発言する保坂区長と小熊英二慶応大学教授ら(同下)

ではとなってはとなってはもの。 で しは25た。 長、作家の て 遊いべ しいでたなの 辺で安心 と子育てなど、 7 下化後の プレー なおおす 市 た。 る場 生活 る。 保 日 強く が 特に、 力 坂 パ 小田急線のが少なくな 上部を新 展 手 してこど 機会となり シ \mathcal{O}] あり まち 下 訴えら で 柳 ン 人 ク 世 下 き 北 0 田 ポ くり づ 沢 北 方 下 邦 田 ジ と < <`` \mathcal{O} L \mathcal{O} な ŧ 沢 を 北 男 谷 ウ つが近ま問 ŋ 区ム L い地 沢 氏

し 動 た 。 出 が出され、実行に北沢協議会」への 「下北沢で生きる」 れ と多彩なライブが行 題されたシンポジウム VOICE 2012 が ホ下 ました。継続 北 8 沢 月 すことに Ø 2 5 ル 日 北 で SHIMOKITA 入行に 向 開 2 6 した「下 タウ な カン 日 ŋ 要 まけ望 わ て、 つ多く 活果、F

協

議していったり学

関係者が継続

ľ

て

必

要と意見が一

致

しま

会を行ったりする場

が 習

開実し

現に向けて準備

会を

始しました。

た。

われわれはそ

 \mathcal{O}

たに 人いて が集う場としてあ を共有した多方面 下 「下北沢を 発足していけ 北沢協 議会 (仮)」 れ

を てと ま 考えています。 どう最初 ドテー なりました。 < 5 提案していけたら 参加者で合意でき 願っています。 行政やまちの方 きたい」という思 提言 住民や関係者の 々な関係 づ くり 今 回 の - ブル」 口書をまとめて合意できれ 示唆がある会 から入れ を 良くし 行う 下 では、 ーラウ . 北 そし 7 ば 5 \mathcal{O}

> の世テ 7] 田 1 熊英二氏を中心 谷 ブ を囲み、 店 主 社会学 な 保 تلح 者 坂 が

災 上 後、 に上 0 本当に人々のサ 役立つまちづく な 話 が 暮震壇

を現在そしてこれ いました。 1 名ほどが はっていく テ 名ほどが、 っていく多彩 のまちづく ブル 北 議 カン

なら

面

Þ

引っ

論

を行

そ

下

北

い持の

0

課

課題についれています。



URL: www.shimokita-action.net / E-mail: info@shimokita-action.net



「『海から山から、民謡でソーランする』伊藤多喜雄(民謡)

か 埋

うら無民だ釈小

す

れらえが住題解

う

証

が

な

心け

反 言 言

7

映す

しれる

ば機

す

る

告私

知な

O 1)

Š

け

で 発は

な

<

て、

も変会へ間に

見保 を坂 聞展 い人 て カン さ W \mathcal{O} ま 意

作明出初し 計にはう す 来 T 画 に ŧ て 説 を画 を い明 5 5 す 住 決 は だろうと と民 ベ そし き う、 Ł 理 T \mathcal{O} 説が最解 \mathcal{O}

表長はげかり

6

小のれ熱い

ま

L

は

に

ま

は

必

要

だ

思

が る

ŋ

で広

とそ

氏 部

代 区

熊

L

7

用

L \mathcal{O} と

て 対 L

4 話

ょ を

内 う

ま引

追

たかあ直大 とっ 災 て が うい う 言 0 は 後 L

で思意機

よまはを

かたあ

か

い思会

うしおおが

り <

か

0

り

? ない

る

なに

7

状互況と対画新北は、、ないので、 を 設 など 更 \mathcal{O} に <, 補 は、 0 \mathcal{O} 助 再54 開号 線 のげ 道 へ た 下の

ŋ に 住 対 あ する う 加 3. な 0 0 ŋ 当 の11街 で な ま

い然見の

<

shimokita 店街の会 ま 況 いに と n のあ街推 8 る。 T 対 会 う の こう 話 と 11 長 分中 さ止 が 7 不 賛 る に Š 去 可 れ 成 11 加 は 年 能 た 反と は、 も商の部な 状对反計路

全

う安た事いと ま保 で Š け や… 0 す す いよ る 石たに、 うねかは の?に で P は絶な原はりこ っ発な方れ 違対

関い無 心ん駄んさ 心は持たないたいだろうと思ったなものを読り なない 気ん わ 2 けたはで Š でらなも

す

立ともか テ ラ う て緯場 う 通 趨 う一時 たはのか ス 行た るじ 対中ら時回 は 道車 ル 专立 考の すな تلح え節や るいそ う を 優 敢し いつえた場れあ 目なと 7 で

歴合ぞらみのいいカに方のの

です

う

フ

普通

社か世

たとえば、下北沢協議会において下記のよるで うな点を協議していくことを提案します。

- ○小田急線上部利用のあり方について
- ○下北沢再開発の行方(補助54号線や駅前自動車ロータリー、め 建物高層化など)
 - ○防災・防犯また独居老人などの対応
- ○商業地区としての魅力を高める方法(まちぐるみフェスティ バルなど)
 - ○住宅・商業地区の共同。生鮮品店の減少
 - ・・・など

あい急 とは中わきい る う 思 そ で け な う W \mathcal{O} で 0 で は 見 す 間結よ す う 7 色 跡 直 かも う こな 地 場 経 て、場が L な 田 \mathcal{O} と 過 れ場 必いそ小須うこ 問 谷 土 だを L 区道 地 題 小 須 7 け経 と田だののる で跡 が

トだそし急 私円帯地不けは円 は卓 ŧ 会 円 議卓 議 す み 숲 体 た の別 鉄 議 道 で う 北 鉄 な 跡 \$ 協小 重 セそう う 沢道 の地も 一跡はだの

Š 1

カコ

れ

が物

え

を に ブ

主 置 ル

張

す

る た に

义 玉 巻

面

を

かと

t

し証の面

た

証

尋 出

問

人

 \mathcal{O} 求

申

出

を 人

拒

す

る

لح

際

ま

で

降

ŋ

て

き

て

 \mathcal{O}

上

差の長

論

に

引 6 ろ 座 聴

続 月 L ŋ 席

き

今

口

ŧ

下

回見所

下 に 傍

る 廷 数

弁前を

全

体 高

11

そ

 \mathcal{O} は

後、 全く

政 カン

側 0

ブ

沢

い区い

と

3

ず

れ

がの

年 政

に間機

気も関

付のの

ま

し

0)

送 業

付 地 類 \mathcal{O}

を 表

明

世示図

L

事 件 事

る。

都、

田

谷 7

行な

19て

口が

日 11 法

頭

は

ょ な

ŋ

0

ŧ

6

判

長

1

段裁

削 地 聞 玉 は 出

大法廷で行われた。 9月25日 火 下北沢道路事業認可取消等訴訟の第26回口 [頭弁論 (裁判) が東京地裁103

たので差し替えてほしいという、 前回の口頭弁論で、 被告· ・国の代理人より、 前代未聞の申し出があり、 裁判所に証拠として提出していた図面が、 その証拠の検証が今回の口頭弁論では行 違うものだっ

おた لح 知 率 今 6 直 L 口 7 せ な は 感 L 裁 想 判 ま 原 を を 中 傍 告 \mathcal{O} 心 聴 に L

北 訴 沢 月 道 訟 2 裁の 路 第 事 5 2 業 日 6 認 火 口 可 П 取 れ地頭 消 下

ンがや 当長間 以 を 異 で カン 証 6 費 な 前 あ は、 P る る \mathcal{O} 5 b لح \mathcal{O} こか、 0 た かの 差 <u>ک</u> 分 等 替 が 近 ど \mathcal{O} ま え コ \mathcal{O} L が 裁 時 メ 点 て 妥 判

裁弁

103 論

号

大

法 判

廷

で が

行

わ京

東

カコ を らた 口 を 投 0 れ が ジ 示 ず、 影 大 工 す 鮮 法 ク L 肝 タ 明 て 廷 لح 心 な 説 \mathcal{O} が \mathcal{O} 画 明 壁 を 出 事 像 を に 持 が試図 ちはた。 業 地 得み 面 出

で 白 n 色 な 塗 で タ 取 ŋ 取 0 n ŋ 事 込 込 業 W カン 地 だ 言 が ŧ \mathcal{O}

原 ま

告

側

弁

護

共

被

告

現

0

裁

判

官 カン

3 5

名、 側

> い視係 カン き 者 な 込 る λ 訟 で 理 務 由 検 た。 事 等

> > 7

1

た。

事

が関

る で 玉 が は あ る 嫌 す 準 気 る 住 備 が態 民 ŧ さ 度 と な

あ証

を

差

え

た

カン 替

L に

た。

3

月

18

日

世

田

谷

は

ほ

と

判 決 判 を 長 Ţ は 行 政 側 ഗ 敗 訴

鉄

道

業

認 区

可

計にに

の概係本

る

書

表 (示 設

写 要

ら 図 概 以 は な こ とが 図 で と ず、 11 \mathcal{O} \mathcal{O} 行 う に 事 政 が 义 事 告 業 経 カン カコ 行 違 が 差の 0 ? 5 計 政 判 事 0 て 許 替 都 そ 始 画 が \mathcal{O} て 業 さ え 合 かれ ま を 行 基 地 11 る 6 明 5 れ \mathcal{O} を る 本 ょ る表 設 5 の 示 下 る な は 11 か示計年 で す

疑か間

な

0 拠 t 0 玉

た

 \mathcal{O} 過 5 行

は

と

て

で

あ

る。

か 証

 \mathcal{O}

5

へな問

被

告

は

め14お

を

提

原 備

告

本 な 当 تلح は 0 と 望 情 7 \Diamond 報 ŧ な 開 公 11 示 正 が ょ

5

な

判

す

る

 \mathcal{O}

今

判

所

が

المط

かの

注

目

さ

れ 断 裁

ま を

住な

民 裁

に 判 れ

> Š 裁 前 判 に を 原映 写 バ 告 ほカ で幕 1 3 ^国 ഗ 不

1_3 玉 に 提 0

提 出 ഗ 準 書

で にに行いる ま罰 は敗 Ŕ う 情 \mathcal{O} で が 下 仕 報 はの な 組の残歳 判本 0 た ず 決 裁 4 も念 月 た カン を 判 を と だ を \mathcal{O} 行 だ。 で は作 が 無 出 政 行 裁 駄 側 す 行 る 政 ۲ べ政た判正に に 裁 す れ 天 L

玉 付は 準 で平備 東成書 わ 件 京16面 側 \otimes を 面

サポーター募集とカンパのお願い

「まもれシモキタ!行政訴訟の会」では、この訴訟を バックアップして下さるサポーターを募集しています。 サポーターの方々には1口5,000円/年(複数口歓迎) のご負担と支援をお願いしています。「まもれシモキタ! 通信」をはじめ、勉強会・シンポジウムなどのイベント 情報、裁判の進行状況や活動状況について郵送・メール にてお伝えします。★カンパのみの応援も大歓迎してい ます(郵便口座 00120-2-594289 まもれシモキタ! 行政 訴訟の会まで)。

サポーター参加と運営費のカンパ協力をお願いします!

「まもれシモキタ!行政訴訟の会」サポーター担当:堀江照彦 TEL&FAX: 03-3467-6936 E-MAIL: HorieTeru@aol.com 住所: 〒 155-0031 世田谷区北沢 4-14-17

口頭弁論のお知らせ 第27回

日時:12月20日(木) 14:00~ 場所:東京地方裁判所 103号大法廷 交通:東京メトロ丸の内線日比谷駅

千代田線 霞ヶ関駅 A1 出口から徒歩 1 分 桜田門駅 5番出口から徒歩5分 有楽町線

大法廷を傍聴人で一杯にし、この訴訟への関心の高さを 裁判官にアピールすることが重要です。皆様、是非ご参 加下さい。法廷終了後に、弁護士会館で裁判の内容につ いて弁護団から解説を受けるとともに、質疑応答・意見 交換も行います。

裁判の経緯・過去の裁判資料はウェブで公開しています↓ http://www.shimokita-action.net/archive/

編集後記: 今度の総選挙も前回同様に、政策の「中身」というよりは政治家の「外見」で大勢が決まりそうな様相を呈している。結局、そうした状況を引き起こしているのは国民だ。 しかし、長年、どんなに国民が声をあげても、なかなか政治に反映されない事態が続いてきたが故に、多くの国民が政治に期待できないのだ。結果、ますます期待できない政治体 制が作り上げられていく…。この負の連鎖を止めるためには、結局は、草の根から様々な活動を続けるしか他に手段はないのだろう。